

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 10 月 1 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	前田 玉青

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
東京都、東京国際フォーラム	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
丸の内キッズジャンボリー2018	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 30 年 8 月 13 日～平成 30 年 8 月 16 日 (4 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学野生動物研究センター、福島誠子特定助教	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>8月14日から16日まで開催していた丸の内キッズジャンボリーにて、PWSのアウトリーチ事業としてブース出展の企画・設営に参加しました。私は、写真展コーナーの企画とスタンプラリー台紙の作成に携わりました。不特定多数へ配布する絵を作成するのは初めてだったので、他人に伝わりやすい絵にするにはどうしたら良いかということで悩みました。もしまた次の機会があれば、今回学んだことを生かして、もっと良いものを作れたらと思います。</p> <p>当日は主に受付と、時々各コーナーの説明等をしていました。特に印象的だったのは、夏休みの自由研究でパンダについて調べているという少女でした。その子は親戚のおじさんから、パンダは着ぐるみを被ったおじさん、と言われて激怒し、パンダとヒトという種について調べていると言っていました。研究の経過を聞かせてもらおうと、パンダやヒトという存在を一発で定義づけるものは見つけられなかったもので、形態や生態などの違いをひとつひとつ調べていっていました。つまり、白黒の被毛も、笹を主食とする生態も、パンダだけが持つ性質ではないので、他の種と区別するには、そういう性質を列挙していくしかなかった、と言うのです。彼女のこの方法は、科学的に正直で、実際にいま分類学で用いられる手法と根本的には同じであると思うので、ひとりでの発見に至ったのは素直にすごいと思いました。いろいろ質問を受けたので答えましたが、彼女の自由研究に少しでも貢献できたのなら嬉しいです。</p>	
作成したスタンプラリー台紙	
6. その他 (特記事項など)	
<p>謝辞：このような機会を与えてくださった PWS に感謝いたします。重ねて、この企画の設営・運営に関わったみなさま、特に福島さまに感謝申し上げます。</p>	